

第4回 たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会 報告

「今、あらためてコミュニケーションとは」



2015年3月28日(土)の午後、国立看護大学校(東京都清瀬市)でたま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会が開催されました。病院および訪問看護ステーションから、看護職の方々17名が参加されました。

今回、患者さんご家族とのコミュニケーションについて、あらためて基本を振り返り、日々経験している困難や悩み、または創意工夫していることを共有して、明日への力に繋げることができました。



①交流会代表 挨拶

今回のテーマ設定の経緯と意義について説明がありました。

(救世軍清瀬病院 看護部長 笠原嘉子)

②コミュニケーションの基礎

コミュニケーションの基本的な要素と考え方、エンド・オブ・ライフ・ケアにおける留意点などのレクチャーがありました。また、会話の場面と解説を通して具体的に理解できる動画教材を視聴し、患者さんの気持ちの揺れに寄り添うポイントを学習しました。(救世軍清瀬病院 緩和ケア認定看護師 大石恵子)



司会

(救世軍清瀬病院
がん性疼痛看護認定看護師
相良君映)

③事例提供：参加者から、関わった患者さんとのコミュニケーションで悩んだこと、振り返ったことが紹介されました。

(救世軍清瀬病院 緩和ケア病棟看護師 川崎遥氏・
公立昭和病院 緩和ケア認定看護師 安西裕子氏)

④グループでの話し合いと共有

小人数グループに分かれ、レクチャーと提供された事例をふまえながら、日々の実践を振り返りました

- ・「何気ない一言」の重さと責任を改めて感じた。お互いに気をつけていきたいと思った。
- ・普段はこちらの思いを一方向的に伝えがちだが、相手の気持ちを引き出し、チームのいろいろな情報をつき合わせて考えていけるようにしたい。
- ・相手が「もし自分だったらどうするか」を考え、相手と本音で向き合っていくことが大事だと思った。
- ・最期まで悩み揺れる患者さんご家族が、悔いを残さないような「意思決定」を支援していきたい。
- ・コミュニケーションは体験だけでなく、訓練が効果的という文献もある。今後も引き続き、学んでいきたい。



次回もお待ちしております。

2015年10月下旬～11月の土曜午後 於 国立看護大学校
テーマについては、アンケートをもとに現在検討中です。
詳細は <http://tama-elc.umin.ne.jp/> にも掲載します。

スタッフ

笠原嘉子・相良君映・大石恵子(救世軍清瀬病院)
河正子(NPO法人緩和ケアサポートグループ)
飯野京子・綿貴成明(国立看護大学校)